明治大学平和教育登戸研究所資料館　企画展「帝銀事件と登戸研究所」講演会
2019年1月26日（土）13：00～16：00　中央校舎６Ｆメディアホール

「帝銀事件の毒殺の手口と毒物の謎をめぐって」

講師　渡邉 良平
（帝銀事件再審弁護団，弁護士）

発　端

昭和２３年１月２６日午後３時２０分頃

銀行員他、子供を含む総勢１６名

厚生技官医学博士Ｙの名刺を持つ男が現れる

「集団赤痢が発生した。予防薬を飲んでもらう」

１６名が集まる

男　の　説　明

この薬は進駐軍の薬

歯の琺瑯質を痛めるから喉に直接流し込む

１分後に中和剤を飲んでもらう

犯人の実演　第１薬

ピペットから湯飲み茶わんに

舌を出して喉に流す

犯人の実演　　第２薬

１分後

別の瓶から茶わんに注ぎ、飲んでみせる

犯行　第１薬

ピペットで１６個の湯飲み茶わんに

３～５ｃｃ

１６名全員、一斉に飲む

第１薬についての生存者の証言

焼けつくような刺激

無色無臭

ウイスキーの強いもののよう

喉が焼けるような激しい薬

１　分　経　過

この間は誰も異常なし

犯行　第２薬

瓶から１６個の湯飲み茶わんに

２杯飲む者もいた

第２薬についての生存者の証言

水のようだった

喉の奥がひりひりした

被　害　発　生

１６名が次々と倒れる

男は、１６万円余と小切手を手に取り立ち去る

１４名死亡、４名は意識失ったが命はとりとめる

判決の認定

第１薬：青酸カリ

第２薬：水

〇遺体から青酸検出。これが死因
〇第１薬は刺激性、第２薬は水のようだった（証言）
〇犯人は第２薬を飲んだ
〇平沢さんの自白

青酸カリによる死亡の構造

青酸カリ
↓
胃液の酸と反応
↓
シアン化水素発生
↓
肺で酸素供給停止

★胃酸の状態によって効力左右

判決への疑問

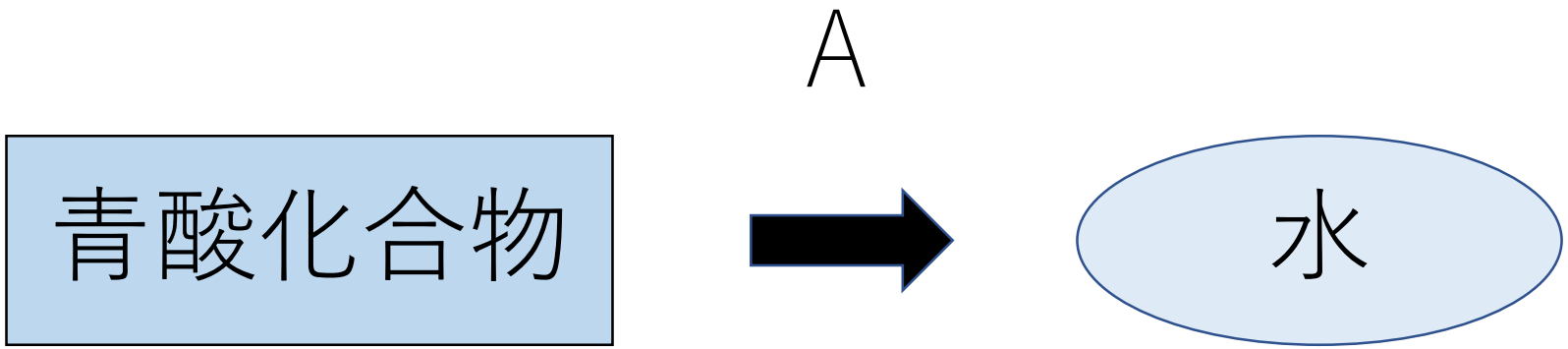
- 青酸カリは超即効性。しかし１６名全員数分間、異常なし
- 遺体の血中青酸濃度が非常に高い。大量の青酸を飲ませたことを示唆する。しかし４名の生存者
- 梅干大８ｇ青酸カリ２個を１６名に飲ませたなら、１人１ｇ。致死量を上回る。しかし４名の生存者

毒　物　の　正　体　は　何　か

犯人にとって最も重要なこと

１６人同時に効果を発生させる

一部の人のみ死亡だと生存者に抵抗通報される



×　１６人全員、１分以上、異常なし

B

薄い青酸化合物 → 水

× 青酸の血中濃度が高い

×一部死亡、一部生存の可能性

C

アセトンシアンヒドリン → 水

旧陸軍で研究

〇青酸カリより遅効性

×人により効果異なる？

D

青酸配糖体
（アミグダリン等）

酵素
（β-グルコシダーゼ等）

〇第１薬と第２薬の反応で毒性発現

〇２つの薬使用を合理的に説明する

×大量の青酸配糖体が必要

×第１薬はドロドロになるはず

×使用の痕跡乏しい

E

青酸化合物 → 酸（塩酸等）

〇相手の体質によらずシアン化水素発生

×１６人全員、１分以上、異常なし

×第２薬は水のようだったとの証言と異なる

酸
（塩酸等）

F

→

青酸化合物

〇相手の体質によらずシアン化水素発生
〇第１薬で１６名全員異常ないことの説明可
〇第１薬が刺激性との生存者証言に合致

×犯人は第２薬を注いで飲んだとの証言
×第２薬は水のようだったとの証言

実　　験

研究機関に依頼して豚に青酸投与の実験継続中

青酸の血中濃度が高い原因　　死後拡散の可能性

当時の鑑定の信用性